

# 花き 花き類全般の害虫管理について

営農指導課 猪原



**全般の害虫管理**

暖くなる時期にはハウス周りの雑草にアブラムシ、ハダニ類、アザミウマ類が発生します。昨年はヨトウムシの発生も多く見られました。

アブラナ科の野菜等が周りがある場合は特に注意してください。

代表的な薬剤を抜粋していますので、参考にされ計画的な防除をお願いします。

系統	農薬名	倍数	対象害虫	使用回数
4A	アルバリン顆粒水溶剤	2,000		5回以内
9B	コルト顆粒水和剤	4,000	アブラムシ	4回以内
1B	マラソン乳剤	2,000		6回以内
20B	カネマイトフロアブル	1,000		1回
33	ダニオーテフロアブル	2,000	ハダニ類	2回以内
25B/21A	ダブルフェースフロアブル	2,000		1回
6	アグリメック	500		5回以内
1B	スミチオン乳剤	1,000	アザミウマ類	6回以内
5	ディアナSC	2,500		2回以内
6	アフーム乳剤	1,000		5回以内
15	ノーモルト乳剤	2,000	ヨトウムシ	2回以内
3A	アディオン乳剤	2,000		6回以内



# 園芸 スイカの栽培管理について

営農指導課 境



## 交配前 草勢コントロールと着果節位について

交配前最後のツル引きでは、雌花の着生状況を確認し草勢の調整を行ってください。樹勢が強い場合はツル引きを遅らせ脇芽は若干放置し、樹勢が弱い場合はツル引きを早めに行い脇芽を除去してください。着果節位は樹勢と玉肥大を考慮し3~4番花を目標に畝の中心で着果させるよう管理してください。

また、雌花を充実させるため、日中はできるだけトンネルを大きく開けるようにしましょう(ツル先の冷気は避ける)。

## 交配時期 花粉の発生について

花粉の発生・受粉促進のため、交配前5日頃から夜温15℃(最低)を目安に管理してください。可能であれば、トンネルの裾をすかし除湿にも努めてください。天候不順により花粉の未発生が懸念される場合は、前日の花粉を保存し着果安定に努めてください。

ミツバチ交配を行われる場合は、雌花開花5日前には養蜂業者へ連絡し、3日前には圃場内への設置を心掛けてください。また、交配開始から数日間はミツバチが正常に活動しているかの確認を行ってください。(活動温度:18℃~30℃、湿度:75%以下)

## 交配後 病害対策について

天候不順による病気の発生、特にうどんこ病・菌核病が予想されます。交配前には予防散布を行い、天候不良により散布できない場合には燻煙剤を使用してください。

## 害虫対策について 入れない・増やさない・出さないを心がけて

外気が暖かくなると野外にも害虫が増えてきます。侵入経路はハウス周辺の雑草ですので定期的に除草を行い、防虫ネットや粘着トラップ(黄・青色)などを活用し、圃場内への侵入防止と拡散防止に努めましょう。

栽培終了後には必ずハウスの閉め込み・蒸し込みを行い、野外に害虫を放出しないように管理してください。

※詳しくは各地区の営農指導員にお尋ねください。



# 畜産 繁殖牛とビタミンA

畜産課 新崎



牧草には、ビタミンAの素となるβ-カロテンが含まれ、給与摂取後体内においてその一部がビタミンAへと変換されます。

飼料からのβ-カロテン、そこから変換されたビタミンAが不足すると発情徴候の微弱、排卵の遅れ、卵胞のう腫や胚の早期死滅、さらに欠乏が進むと妊娠維持のための黄体から分泌されるプロジェステロン(黄体ホルモン)のホルモン分泌が少なくなると「黄体機能不全」となり、受胎率の低下、不妊を招きます。また、妊娠後期にビタミンAが欠乏すると流産、胎盤停滞が生じたり、虚弱な子牛が生まれることもあります。

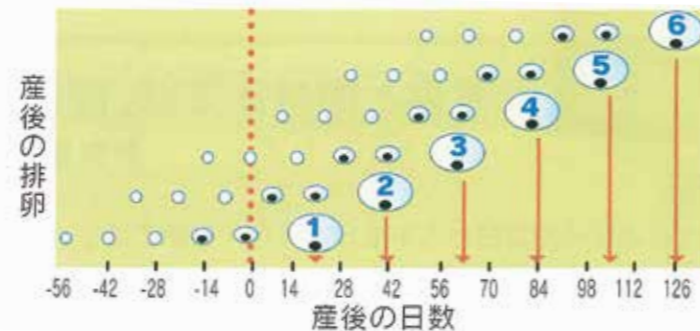
母牛の繁殖障害の3割ほどは卵胞のう腫が占めているといわれ、これは牛の血中β-カロテンと関係があり血中200μg/d前後のβ-カロテンが含まれていれば発生率が低いと、この濃度を維持するためにはβ-カロテン濃度の高い飼料を摂取する必要があるとのデータもあります。

暑熱によるビタミン消費が激しい夏場や冬場に稲ワラを主体として給与する場合は、ビタミン類が不足しがちになり、繁殖障害や受胎率の低下も多い傾向になります。このような場合、特に分娩前後はビタミン剤等の補給が必要となりますが、その意義は卵胞機能の向上にあり、それを示すのが図1となります。

例えば分娩後42日目(適期授精)に排卵した卵に授精する場合、その卵の発達からみるとすでに1カ月以上前、授精する卵からすると2カ月半前から成長していることとなります。

卵の元は原始卵胞と呼ばれ、この卵の品質に栄養、ビタミン類が影響しています。「分娩前後2カ月の増し飼い」という言葉がありますが、胎児の急激な発育に対する栄養補給、生後の子牛発育に対する乳を介しての栄養補給の意味と、「健全な卵」を成長させるためには極めて重要です。併せてビタミンA、β-カロテンなどが卵巣に及ぼす効果を考えると、青草などのビタミン類やミネラル豊富な良質粗飼料を給与することは必要不可欠といえます。

図1:産後の排卵状況



(参考資料) 養牛の友2012.9 (株)日本畜産振興会

# 農作業メモ



# 普通作 麦類の管理について

農産課 青木



麦類の赤かび病は、収量や品質を低下させる病害です。また、人畜に有害なかび毒(DON等)を産生するため、農産物規格規定では、赤かび病被害粒の混入が0.0%以下となっています。発生した場合は「規格外」となり全量出荷停止になります。JAへ出荷される生産者は大麦・小麦ともに、必ず赤かび病防除を実施してください。

## ○麦類の管理について

赤かび病は開花期~乳熟期に感染します。菌の胞子飛散等は雨によって助長されるため、この時期に雨が多く、気温が比較的高い(20~27℃)状態で経過すると多発しやすくなります。出穂や開花状況をよく観察して、適期に防除を行いましょう。また、この時期は蛋白質含有率を高める実肥の時期です。葉色と穂数を見て適量を施用しましょう。

## ○赤かび病の防除適期

	防除適期	多発の恐れがある場合
二条大麦(くすもち二条)	穂ぞろい期から10日~14日後頃	1回目の散布の1週間後に2回目の散布を行う。
小麦(チクコイヌ)	1回目:開花最盛期(出穂から10日後) 2回目:1回目の1週間後	3回目の散布を行う。

※小麦は出穂後10日頃に、大麦は出穂後数日で開花します

## ○赤かび病防除

農薬名	10a当り使用量	倍数
トップジンM水和剤	薬:100g 水:100L	1000~1500倍
トップジンMソル	無人ヘリ防除	8倍
ワークアップフロアブル	薬:50ml 水:100L	2000~3000倍
ミラビスフロアブル	100L	1500~2000倍

※トップジンM剤の出穂期以降の散布→(大麦)1回まで、(小麦)2回まで  
※周辺作物への飛散に注意する

## ○麦類の実肥について

- (1) 10a当たり1kgの窒素を施用することで、蛋白質含有率は約0.3~0.5%増加します。
- (2) 麦類の生育状態によって施肥量を加減しましょう。平年より穂数が多い場合は1~2割程度多く施用し、穂数が少ない場合は減らしましょう。



# 果樹 4月の果樹園管理

営農指導課 藤本



## 防除・施肥・栽培管理

品目	栽培管理	農薬・肥料	倍数・施肥量	対象病虫害・目的
みかん	・みかんの花の量が中~やや少ない予想が出ていますので、2~3月に剪定が行えなかった園は着蕾を確認してから剪定を行ってください。花が多い樹は花を減らす剪定を行い、花が少ない樹は発生した新梢や徒長枝の剪除を中心に行ってください。 ※1 ハーベストオイルを使用する際は、葉色と樹勢を必ず確認し散布してください。 ※2 発芽後にかいよう病を防除する際は、コサイド3000と葉害防止のクレフノン200倍を必ず混用して使用してください。	デランフロアブル	1,000倍	そうか病
		ハーベストオイル	150倍	ミカンハダニ
		コサイド3000	2,000倍	かいよう病
デコポン	・腰高果を作らないようにするため、蕾が見えてからは昼夜の温度差は15℃以内になるよう管理しましょう。(目安:最低19℃、最高29℃)	クレフノン	200倍	(コサイド3000と混用)※2
		モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	アブラムシ類
		ジマンダイセン水和剤	600倍	黒点病
		ジュシーカル	1,000倍	体質強化
梨	・満開2週間後ごろから予備摘果を開始し、2~5番果の変形のない果実を残しましょう。 ・芯腐れ多発園では、開花10日後にチオノックフロアブル500倍(30日、5回)の散布を行ってください。 ・ベルコートは黒星病の耐性菌対策および効果補強のため混用散布を行いましょう。	果樹専用スペシャル842	2袋/10a	追肥
		スコア顆粒水和剤	4,000倍	黒星病・赤星病
		ベルコート水和剤	1,000倍	黒星病・赤星病
		カナメフロアブル	4,000倍	アブラムシ類
		ウララDF	4,000倍	黒星病
柿	・枝の中心部の蕾を残し、1枝1蕾に制限してください。 ・渋柿の場合は、無着花新梢を含め全体の枝の1/3は実をつけないようにしましょう。	インダーフロアブル	8,000倍	アブラムシ類 シンクイムシ類
		オリオン水和剤40	1,000倍	炭そ病
桃	・満開2~3週間頃ごろから予備摘果を開始しましょう。 ・核割れ対策として、極度な肥大をさせるような管理(強い摘果、高温、多かん水)は行わないでください。	デランフロアブル	2,000倍	炭そ病
		アブロード水和剤	1,000倍	カイガラムシ類幼虫
李	・1ヶ月後ぐらいから予備摘果を開始して下さい。	スコア顆粒水和剤	2,000倍	灰星病・黒星病
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	シンクイムシ類
栗	・早めの下草(イタリアン含む)刈りを行い、害虫の被害を軽減させましょう。	マイコシールド	2,000倍	黒斑病
		ディアナWDG	5,000倍	シンクイムシ類
		サッチューコートSセット ※若木など防除が必要な場合	15倍	コウモリガ

※農薬使用・混用について不明な点がございましたら、JA指導員もしくは営農センターにご相談ください。